第２回　木曽川水系流域委員会

平成１９年４月２６日

【浅野調査官】　　それでは、１日、今日も大変お疲れさまでした。今日は多分一番長距離走ったと思います。

それで、きのうは、何も意図していなかったんですが、利水のところへたくさん行って、利水の話がありました。今日はしょっぱなから、重網委員から長良川を一体どうするんだという話から始まったので、どうなることかと思いましたけど、今日はどちらかというと流域の治水というのかな、川の中の治水も重要なんだけど、流域で洪水に対して、災害に対してどう対応していくのかというところがかなり話に出たと思いますので、多分その辺が今日の中心になるかと思います。一応きのうと同じようにあんまりきちんとした議事でなくてよろしいものですから、今日もまた現地視察を終えての感想とか気がついた点がありましたら、ぜひご意見いただきたいというふうに思います。それでは、よろしくお願いします。

【辻本委員長】　　きのうと同じように気楽にご意見いただけたらいいんじゃないかと思うんですけれども、問題はどっちからスタートするかというだけの話で、よろしいですか、藤田さんでいいですか。これは順番でしかないと思いますので。

【藤田委員】　　岐阜大の藤田ですけれども、結構ふだん歩き回っているところを見ることが多かったんですけれども、それなりに、いろいろと皆さんの説明を聞かせていただけるといろいろと違った面も見えてくるといったところがあります。

ただ、やはり長良川は非常に難しいんですけれども、下流のほうは例の河道掘削が非常にきいていて、１６年の水害でも全然怖い思いをしなくて、その分中上流のほうは、特に県管理区間、今日最初に行ったあたりを含めて。ダムの話で最近気になっているのは、確かに亀尾島川の上流には県の補助事業で内ヶ谷ダムというのがつくられていて、それなりの水量は持っていますけれども、結局、従来の規定で、指定区間、県管理区間しかその効果を発揮してはいけないというふうな縛りのようなものがあるというふうに聞いていて、確かにいいところだといろんな格好で使っていったらいいので、どんどんいろんなところにきかすようにしていったらいいんじゃないかなというふうに感じているところです。なかなかいいところがなければ、そういったところをもっともっと使えるように、あるいは

亀尾島川の流域はそんなに大きくはないといっても、もっと下のほうがあれば、せんだって見に行こうとしたら途中から林道になりまして、普通の車はなかなか入れないようなところになっていきました。ダムサイドには反対側から回り込まないといけないということを聞いていけばよかったんですが、そうしなかったものですから。

あとは、下流のほうは河床が非常に下がっているので、やっぱり下がった状態を岐阜の墨俣から上流のほうも早くきかせていただいて、水位を下げるということをしっかり考えていただきたいなというのが一番感じているところです。

【重網委員】　今日は印象的だったのは、長良川の上流部の堰のあたり、あそこで霞堤が大きな口をあいてありまして、あれについていろんなことのお話を聞きましたけど、ほんとうにもう少し何とかならないのかという感じがいたしますね。あそこに住んでいる人から見れば、いつまでも霞堤で口をあけられちゃったらそれは困っちゃうと思うわけですね。それにはいろいろな理由があると思うんですけど、今日聞いている範囲では、県の管理のところと、それから直轄でやるところ、もう少しうまく連携してできないものかという感じがしますね。

その後、犀川のほうへ行きまして、あそこの輪中堤のところに新しく埋立地ができまして、私は前行ったことがありますが、今は非常にきれいになった。そして、住宅地とかそういう商業地ができまして、そして、それが治水にもある程度役に立っているんじゃないかと私は思うんですけど。片一方は成功で片一方は不成功とは言わないけれども、これからどうなるのか非常に心配なところがありますが、これは国と県と、直轄だとか県の区間だとか、そんなことを言わずに連携してやっていかないといかんと思うんですね。

特に、車で走っていると、国の管理のところから県の管理のところに行きますと急に堤防が下がりますね。これはほんとうにはっきりしている、交通事故を起こしそうですよ。だから、あそこのところがもう少し何とかならないのかと。同じ国なんですよ、外国じゃないんですからね。その辺、我々、流域計画をつくる上において、国と県との連携というのか、市町村もありますけれども、やっぱり考えなくちゃいけないなという感じがいたしました。

【辻本委員長】　今日はどうもありがとうございました。

木曽川から揖斐川までの三川の中で見られるところというのはそんなにない中で、うまいメニューをつくって提示いただいたというのはほんとうにありがたかったと思います。これだけしか見られないのと最初提案いただいたときには思ったりもしたんですけれども、

よく考えてみると、やはりうまく適度な数をしっかり見て、いろんな議論が出ることをちゃんと事務局が考えて視察会を設計されたんだなというのがよくわかりました。

背筋がぞっとなるような言い方をしましたけれども、いろんな意見が今日も出ました。今、藤田先生からと重網先生から言われたような、やはり車の中でも議論がありましたように、流域委員会で議論するのは直轄の部分の整備計画の話なんですけれども、それが一体どんなふうに、上流である指定区間とか、あるいは川沿いでないところも含めてそういう地域とどんなふうに連携するのかというようなことをしっかり考えないと、直轄の論理だけでやっぱり決して説明していけないと。細見さんも言われたけれども、大きな視点で言えばやはりめり張りをつけるということも大事だし、今後の将来を考えると、今までしっかり流域での安全を担保していたところまでどうして手を出していくんだというようなことも気がかりなところであることは確かなんだけれども、そういうふうなところをしっかり詰めないと、ただ単に上下流だけの問題であるとか、片一方は直轄で片一方は県だけの問題だというような議論ではやっぱり説明していけないというところがものすごく今日は感じられました。

大事な議論が出ました。例えば、内水と外水という話でも、直轄の人は指定区間のそれこそ支川が流入してくるところは簡単に、これは内水樋門なんだとか内水排除のためのポンプだと言われるんだけれども、その川を管理している人にとっては、その水がこぼれることは外水氾濫だし、さらに水を集めてきてというところの話が内水だし、やはり主体が何であるかによってかなり概念というものもうろうろするんだなということを今日は感じました。ということで、やはりいろんな構造があると思うんだけれども、その構造をしっかり意識して、丁寧に説明されて議論するようにしていけたらなと思います。

それから、藤田さんが言われた中で、指定区間といいますか、県がやっている補助の事業の話と直轄の話というものは、かつてはやはり切り離されていた。それがネックになっていたかもしれないんだけれども、やはりそこは一歩超えられるし、今、一歩超えようとする努力も多分されているはずだと思います。そこを超えないと、例えば長良川のような治水の問題はやはり解決できないなと。

それから、もう一つ思ったのは、途中でマスコミが非常に興味を持って徳山だけ来るわけですけれども、流域の治水の問題も、治水の問題でダムの問題だけでは決してないんだと。１つのものに目が行きがちなところを、治水もあるし利水もあるんだと。それも、ダムだけでもないし遊水地もあるし流域の対応もあるし、あるところは堤防もあるし地盤を

かさ上げすることもあると。いろんなメニューがそれぞれ地域性あるいは自然の地形性と連携して、そして相互に力を発揮しているんだというふうなことがうまくできる川づくりというものを皆さんと一緒に議論できたらということを強く思いました。その辺が、インタビューされたときもなかなかそういう話にならないで、ダムはどうなっているなんていうような話がすぐ頭から来たりします。ダムといったらまた治水の話だとか利水の話に限定して興味を持たれてしまうのですが、現実には様々な問題がものすごく絡み合ったものです。委員長を仰せつかっていることもあって、流域委員会では中身をできるだけ解きほぐして、いい流域の議論ができるようにと、そんなことを感じました。

【岡山委員】　　ありがとうございました。

私もきのう今日と２日間､明日はちょっと行けないんですけれども､見せていただいて、でも、３つの流域を全部見せてもらったんですが、霞堤とか遊水地とかそれからロックフィルのダムというもの、すべて初めて見たのでなかなか興味深かったです。

例えば、霞堤と遊水地のところの考え方、遊水地と言っていいんですかね、あの霞堤をわざわざ切ってそこに水を遊ばせておいて、そこの地域全体を守るという、それこそ先人の知恵のような守り方と、それから、片や下流にあった輪中、自分のところだけまず守るというのと、非常に哲学が違うのがおもしろいなと思ったんですけれども、何となく、でも、霞堤も今回全部締め切らない、少し時間を置いて、でも、同じようにあそこのすべての地域でどう守るか、ついでに下流もどう守るかというのを考える、そういう視点はやはり大切なのかなと思いました。

それから、何度も何度も出ているんですけれども、直轄と県というのも、私もこの会に参加させていただいたときに、やっぱりこれは国の計画だからといつも頭に入れようとは思っているんですけれども、とはいえ、辻本先生がおっしゃるように、そこの住民から、あるいは国から、県から、その他いろんなステークホルダーの視点からだと、皆さんほんとうにそれぞれに主張されることがあって、それをやっぱり一つ一つ独立しては解決できないですよね。

例えば、治水と言っていいんですかね、ハザードマップなんかはまさにそうで、そこの自分のところだけの安全情報だけじゃ多分ないはずで、こうやって流域全部を見せてもらえばそれがすごくよくわかるんですけれども、多分よくわからないと、お互いに自治体同士の不幸な争いになってしまうことも多分あったりなんかして、まずそういう、環境教育じゃないんですけれども、こういう情報をいかに知ってもらうかということもなかなか大

切かなというのも思いました。

【辻本委員長】　今、霞堤の締め切らないところを見せていただいて、生活の知恵でなかなかうまくやっているなと思っているのは、やはり流域全体で下流側の視点で物を見ているからで、多分そこの住民は決してそうは思っていない。

【岡山委員】　それはそうだと思います。

【辻本委員長】　だから、生活の知恵だと決して中に住んでいる人は思っていないかもしれないところにやはり問題があって、重網さんなんかは、どうして守らないんだ、そこが守れないんだ、もう何年もたっているのに守れないんだというような見方もあるわけですね。

【藤田委員】　ただ、輪中の地域は、平野さんはよくご存じように、結局最後まで水が残るんですよね。中上流のは一応ピークが過ぎていけばどんどん排水はできるわけですね。だから、湛水時間とかそういうのを考えると、まだ耐え忍べるところはあるのかなというところも事実なんです。ですから、輪中はやっぱり締め切らないと非常に長い時間湛水してしまうという地形的な問題があるので、その場所だけ考えておるわけでもないということですね。

【岡山委員】　思ったんですけれども、ほんとうに申しわけないですけど他人事なので、輪中の安八のところも、あれは下が締め切ってあるから上が湛水したという見方もできますけれども、あれが被害を食いとめているようにも見えるんですよ。拡大を防いだようにも見える。

【藤田委員】　実際に、流れの早いところで完全に締め切って、上流側からオーバーフローして切れますと、非常に強い流れが一気にどんとやってくるのは事実ですし、下があいているとじわじわ上がってきて、ある程度たまったころにやると高低差も少なくなって、堤防が基本的にもつから泥水の強烈なのがあまり入ってこないとか、そういったことも当然一方であるのも事実ですし、今年もあのところなんかは越流もしていて、堤防が一部削れるようなところがあったんですけれども、そのときは下流側から上がってきていて、どうもそれでとまったのかなと思えるようなところもあったのは事実なんですね。

【辻本委員長】　だから、それぞれのところの価値観と、それから、多分それを解決するのは、１つはプロセスを見ると、どういうプロセスだとどんな災害は危ないタイプなんだとか、比較的我慢のできるタイプなのかとか、そういうプロセスの話をしないといけないのではないでしょうか。それはひょっとしたら１つの突破口になるかもしれないねとい

う気がします。

【岡山委員】　　何か最近の水害を見ていると、わりと大きな河川ががんといってしまうんじゃなくて、中小のところで今まで考えもしなかったところが切れて、すごく被害が出るというのが気になるんですけど。だから、河川に住まれている方は、私が今日見て、よくほんとうにこの川の横に住むなと思っちゃうんですけど、つい。

【辻本委員長】　　その人は守ってほしいよね。

【岡山委員】　　というか、ひょっとして自分のところは切れないと思っていたりとか、あるいは切れたにしても、もしかしたら一生に一回ぐらいで確率の問題じゃないですか、どこが切れるかわからないので。だから、やっぱり平常時というのはそういう意識ってなかなか薄れるんだろうなと思いました。

【関口委員】　　どうもありがとうございました。

きのう木曽川を見て、今日長良川を見て感激したんですけど、３つの河川、みんな風景もそれぞれしみじみいいなと思って、なおかつ地域住民の絡みがあるから周りの景色も随分違うし、何とか今以上に風景も環境も悪くならないようにしてほしいなというのが正直なところで、だけど、実際そうするにはどうすればいいのという問題になると思うんですけど。

２つ３つ、ちょっとこれからの話なんですけど、多分流域委員会で、僕なんかは思うんだけど、これだけダムがあると、ダムを当初つくったときの機能を果たしているのかと。例えば、１つの土砂の堆積の問題、横山ダムの堆積を浚渫して取って機能を回復するということをやっていますけど、今あるダムの機能を、本来持っていたやつが土砂の堆積だ何だかで、劣化と言ったらおかしいんですけど、結構治水対策の上では低下していると思うんです。新たにダムをつくるどうのこうの以前に、今ある既存のダム群を何とかもとの、当初予定したような機能をもっと復活させるような、そのためにはどうしても土砂対策が要ると思うんですけど、じゃ、河道掘削して水位を下げるという方法よりも、今ある横山ダムとかいろんなダム群の土砂の堆積を取ることによって、かなりの程度代替機能を果たせるんじゃないかと素人ながら思うんです。そうすると、じゃ、その土砂をどこに持っていくんだという話になると思うんですけど、ぜひそういう議論を、今ある既存のダムの機能をもっとリフレッシュして復活させるということと絡んで、ぜひ土砂の問題をどうするんだという全体の中の位置づけをぜひ議論の中でしてほしいということ。

それから、今日、長良川の鵜飼のところを見せてもらったんですけど、あそこの防水堤

で。土木の専門家のほうから言わせると、あそこは危ないよと言ってもなおかつ引かなくて、旅館をやっていると。でも、それは、その後ろに本堤がありますけど、僕はそういうのに、そこに住んでいる人が、純粋に土木工学的な見地から言うと危ないんですよ、だけど、なおかつそれを自分たちの住む意義を見つけてやっているとすると、個々については何がベストなのかという話は、やっぱり地域住民との絡みで、必ずしも同じでないんじゃないかと。

そうするときに、そこの場所はいいけど、じゃ、それの下流はどうするんだという問題があるとすると、木曽川、それぞれの河川は、流域委員会で一応流域とやっていますけど、上流側、中流側、下流側の住民同士の間のコミュニケーション、今、庄内川はたしか地域住民の協議会をつくっているみたいですけど、こういう流域委員会のような格好はいかないと思うけど、上流側の問題、それが下流側、中流側にどう響くのかと、そういうお互いの情報を流す、懇談する場がないと、例えばさっきの輪中の話なんですけど、僕もこの前どなたかに聞いた、上流がよければ下流は悪いし、下流がよければ上流がよくなるというふうな格好で、両者の間は話してもなかなか解決がつかないんじゃないかというふうな話を聞きましたけど、そういう問題がどうしても出てくると思うんですね。

それから、もう一つは、流域が広いので、専門家から見ますと広いのかどうかわかりませんけど、僕が見ますと広いので、雨の降り方も一様じゃないとすると、木曽川、揖斐川、長良川、それぞれについて降るパターンも洪水のパターンも降水量に対して出水のパターンも随分違ってくると思うんですけど、きのう、専門家の話、論文を読んでいたら、東海豪雨のときはものすごい雨が降って歴代観測史上１位だということを言っていたんですけど、実際は、川の出水の日間の量からいうと、歴代３位ぐらいか４位ぐらいだと。ほんとうは１９６０年か６５年の方が出水量としては非常に高かったんだと。

何でそうなるのということになっちゃうと、やっぱり土地利用形態とかそういう問題が大分違ってくるから、そういう問題も全部違って反映してくるんじゃないかということを考えちゃうと、やっぱり土地利用形態の変化によって災害の問題とかそういう問題が随分変わってくるところはあるんじゃないかと思うので、そういうところも、当然将来の流域全体の土地利用の形態とか展開の問題はどうしてもやっぱり考慮に入れないといけないと思うので、その絡みと出水、洪水被害の問題とはどこかで一遍リンクさせて議論する場が欲しいなと思っています。

【辻本委員長】　　ありがとうございました。

３つ、一番最初のやつはというふうに、忘れるとあれなので復習だけしておきますと、一番最初のやつは何でしたかね。

【関口委員】　　ダムの機能のリフレッシュの問題。

【辻本委員長】　　ダムの機能の問題ですね。これはフォローアップとかできちっとやられているので、それはまた後から簡単にお話しいただいて、今、簡単にご説明いただいたらいいと思います。

それから、３番目の雨の降り方と流量の出方というのは、流出の問題ですね。雨が降ったものがどんなふうに川の流量として出てくるかの話なので、これは洪水とか利水の今後の出てくるデータの中で、今おっしゃっていただいたようなことをしっかりわかるようなデータをつくっていただくということ。

それから、２番目は、地域のそれぞれの人たちの物の考え方がやはり重要なので、流域委員会だけで特化して議論しているのはというようなニュアンスもあったかと思うんですけども、いろいろやり方がある中で、もう少し住民とか、一番最初に私も思ったのは、流域委員会の物のつくり方もほんとうは議論しないといけないんだけども、なかなかこういう委員会でスタートしていると。このスタートした委員会の意義を一番生かすためには、今の問題の中でも、流域の意見の取り込み方というよりも、そういうもののベースになるもの、例えば、住民がよかったらというふうな話の中でも、すなわち、うまくやっていけるところもありますねという住民の考え方も取り入れるという話なんだけども、場合によっては、そういうやり方が周辺への敵対型になるのか、それとも自己破滅型なのか、すなわち自分がかぶっちゃうという……。

【関口委員】　　僕が言いたいのはそういうことじゃなくて、要するに、我々がこの流域をやるときに、最低限人の命は守らないかんし、被害を防ぎましょうということ。そうすると、やっぱり水をあふれさせないよというような方向で、ダムをするのか堤防を強化するのかどうかわかりませんけど、どうしてもなりますよね。だけど、それは我々がこの委員会をするときに、常に代替案を、何のためにということを言っちゃうと、例えば少々床下浸水で、床上にならなくても、少なくとも床上にならない人には、例えば何億とかかる、でも、床下浸水程度だったら１億ぐらいで済むとすると、やっぱり床下ぐらい我慢しましょうというような選択肢も当然出てくると思うんですね。

だから、僕が言いたいのは、我々が流域委員会としては、やっぱりどうしてもはんらんとか洪水させない計画だから、水位を下げるような、危険水位を上回るような堤防という

ことをしちゃいがちですけど、社会経済的な面が入るから、ほんとうは代替案、次善の案とか、ここを犠牲にしてもこの部分はもっと生きますよと、そういうふうなあれがあると思うんですよ。

だから、僕はそれはそれでいいけど、そうしたときにもう一遍、現地の様子を考えちゃうと、代替案みたいな格好、土木工学的にはベストであっても、流域の地域住民とか全体を考えちゃうと、経済的、社会的状況を考えちゃうと、必ずしもベストでない例があるんじゃないかと言いたいわけ。

【辻本委員長】　　そうですね。そのとおりだと思います。

それで、代替案を出して、最後、どういうふうなものを選びますかというところは、多分住んでいる方々の意見とか入ってくるんだけれど、その前に、我々がその代替案みたいなものをきちっと整理できていくかどうかというところまではこの委員会でやりたいねと。それをきちっとやっておかないと、一番最初から代替案を幾つも出して、そのうちのどれがベストですかというような議論にはなかなかやっぱり難しいでしょうねということで、やり方としては……。

【関口委員】　　時間的余裕もないし、そんなことできないと思う。

【辻本委員長】　　今１つ私が言いたかったことは、住民がよければいいという話でも、自己破滅型みたいな、すなわち自分が水をかぶるような問題で本人がよしとする場合と、自分がつかってもらうのは構わないんだけども、あなたがやっていることはほかに迷惑かけますよという意味での、これでもいいんだというふうな住民の選択というのは、やはり我々が初めにきちっと分類しておいてやろうと。こういうことをやると、あなたたちはよくてもほかのところに迷惑をかけるんですよと。こういうやり方は、ほかのところに迷惑かけんけど、あなたたちは非常に大変な目になりますよというふうな分類だけは、こういう委員会できちっと分類できるようにしておきたいねというような気がしました。

【関口委員】　　だから、僕はさっき言ったように、土木工学的とかいろんな面でベストな案を一応議論するんでしょうけど、もちろんそれを踏まえた上でということになると思います。

【藤田委員】　　ふれあい懇談会とかやられているわけですので、できるだけそういった情報をまとめてこちらに示していただけると、そうした場合、考える材料になるのではないかと。この委員会がひとり歩きになっても当然ぐあいが悪いわけですので、そういった雰囲気なんかをいろいろ伝えていただけるといいんじゃないかなという気がします。

【光岡委員】　今日は久方ぶりに完成間際の徳山ダムを見せていただきました。ほんとうにありがとうございました。

スタートの時点は、利水の面で言いますと、３県１市が水のとり合いをしておった時代、たまたま工事完成までに長い時間がかかったということで、フルプランの見直し、水余り現象の整理というのも一応できたのではなかろうかと思っておるわけですが、これから先も、導水路、ちらほらと今日も車中でご説明があったわけですけれども、延々と木曽川まで引っ張っていくと。これまた長年月の事業になってくるんだろうと思いますけれども、この辺の本質的な手続は別といたしまして、実際の工事というのは一体どれぐらいかかるんだろうかなというのが１つ疑問として残っております。

それが、今たまたま水余り現象で３県１市の水利用計画、徳山に関しては決まったような状況になっておりますけれども、ほかの部分でもまだ水余り現象というのはあるわけでございまして、その辺の交通整理が、これから先３０年の間、整備計画の範囲として、新たな水源なりそういったものもない中で、計画だけの見直しというのをどういうふうに始末していかれるのか。ないとは言えないだろうと思っておりますので、その辺が１つ疑問に思っておるところでございます。

特に、先ほど、治水の面で雨の降り方の違い等がございましたけれども、ダムそのもののそれぞれの事業計画、これ、利水の基準年がそれぞれのダムで違っておるその辺の解消なり、それから、近年の雨の振り方による利水安全度の向上、これもフルプランのときに議論もされておったわけですけれども、この辺をどういうふうにリンクして、実際の水利用、前にいただいた資料の中ではダムの統合管理といったような話もあったわけですけれども、この辺ともリンクした整理ができればまことにありがたいと思っております。

【辻本委員長】　一番最後はひょっとしたら議論する内容になるでしょう。それから、その前の話は、次回たまたま利水の議論をするという予定ですので、今おっしゃっていただいた、ずっと長期間かけて工事をやる場合に、どんなふうに需要とかそういうものが変わっていくのかという話は徳山がちょうどいい例で、ご紹介いただくような資料を用意いただく。それから、それ以外のところも利水の資料には必要なところですが、例えば、最近の降雨減少傾向とかそういう中での水需要の予測の話とか、その辺も含めて、今のご意見いただいたところの前半は利水の資料の中に生かしていただけるようにお願いしたいと思います。

【平野委員】　最後になりましたが、皆様方それぞれがご意見を発表していただきまし

て、私も同感でございます。

だだ、今も委員長さんのほうから水需要の問題等も含めてということでお話がございまして、これまた私なりに思うんですが、長良川河口堰ができたときに相当反対された。私、三重県ですけど、三重県のほうの上層部の方でＮＨＫのテレビまで出て全国放送の中で水は要らないというようなことを言い切られた方が、２０年たって今そこに大きなＩＴ産業が誘致されまして、水がすぐに足らないというようなことが出てきましたので、これまた水需要ということになりますと、将来的にほんとうにこの委員会で将来計画が立てられるものかなと。今の世の中、昔なら１０年、２０年ということですが、もう５年、１０年、ころころと変わっていく世の中で、トップの方が言われたような、そんな水事情にしても変わってくるということでございます。

私も委員長さんと一緒にニューオーリンズへやっていただきまして、つぶさに見学させていただいたときに、メキシコ湾には、今、億ションといいますか、高級住宅街が林の中にずっとあったところが全部高潮で軒並みやられて土台だけになっておったので、工兵隊の方になぜここに防潮堤がないんですかと言ったら、いや、国としてはやりたいんですが、１００年に一遍の高潮洪水に、この景観がいいので私らはここに住んでおるんだと。ですから、床下浸水ぐらいは５年や１０年に一遍ぐらいはあるんですが、そのような大きなことは１００年に一遍だと。そんなときは逃げていきゃよろしいので、日々の生活が優先するので高潮堤は要らないというようなことを言われたということです。

私どもも、伊勢湾台風があった後で河口堰事業やらいろんな堤防改修があったときに、国交省さんのほうから、堤防の上を走っていただきますと、堤防のすぐ下に集落が密集しておりまして、勢い、それも民家の土地も上げて、スーパー堤防で上に土地を上げたところへ住居してもらったらどうかというような話があったときに、百姓さん、田んぼへ行くのにもそれこそ一々上がったりおりたりがえらいので、少々水が入ってもしようがないやないかと、今のままのところで住まいをさせてくれと、そんな高いところへ屋敷を上げてもらわんでも結構ですというようなことが大勢になりまして、大分説得はしても、この際でということで皆さんに説明し、国交省さんのほうからもそうしたらどうだというような案も出していただいたんですが、大変難しいと思うんです。

今、今日見せていただいたんですが、それぞれのところに、温泉街といいますか、あそこの長良川の鵜飼のところの旅館街ですけども、あのようなところで生活をしていただいておりますと、これまた、車さえのけたらある程度の水位までは安全であるというような

ことで、あのようなパラペットのようなことでやってあるというようなことですので。

上流は上流の、私も第１回のときに言わせていただいたんですが、おかげさまでうちのほうは浚渫をしていただいてスムーズに流下するんですが、前の１６年のときでもあの辺のところは大変大きな被害をこうむられたというときに、下流部では秋祭りをしていたということで、何にも別に避難命令もなかったというようなことなので、上下を全部一緒くたにということやなしに、それぞれのところで、ひとつご論議いただいて、その上で国交省さんのほうでまとめていただき、これからの治水やらあるいは水環境、今も関口先生が言われましたのですが、あまり三面コンクリートもよろしくないということで、できることなら水生も考慮しながらこれからの世に残していただいたらありがたいかなと思っております。

意見になったかならんかわかりませんが、このようなことで今日感じさせてもらった意見とさせていただきたいと思います。

【辻本委員長】　　ありがとうございました。

平野さんの言われた中でも、私ちょっと言ったんだけども、住民の意見はいろいろある。でも、それで住民はよしとしても、大変な災害が出ることもあるし、自分たちが災害を受けなくてもはたに迷惑かけることもあるしというようなところは、住民の意見を聞くというプロセスより以前に我々がやっぱりきちっと整理しておかないといけない話ですので、流域委員会がすぐにコンセンサスを得る場とか整備計画を決めてしまうという議論である以前に、きちっとした議論ができる整理の仕方というのはひょっとしたらあるんじゃないかなというふうな気がしますので、そういう方向をできるだけこの委員会の機能を生かしてしばらく議論させていただけたらというふうに今日は我々感じさせていただいたというふうに思います。

ほか、よろしいでしょうか、追加は。

【重網委員】　　今おっしゃった三重県の水が足らない話、あれはいろんないきさつがあるらしいんですけど、一体実態はどうなっているのか。三重県が１００億出すとかいろんな話がありますけど、あれを詳しく報告してくださいよ、今度の利水のときに。それだけです。

【辻本委員長】　　いろんな事例がありますので、事例の中でお話しできるところというのは、徳山も、先ほど言った長期間かかる中での変化の中での格好の例になるでしょうし、多分用意されているのは、先ほどちょっと言われた利水基準年、計画の基準年の中でのと

いうような非常に一般論的な話もあるけれども、それ以上に三重県の水資源の問題とかはもっと際立った話ということで、基本的にやれるところも、きちっとそれは基本的に情報を整理していただくとともに、やはり特異な事例というのは非常にディスカッションするときの参考になるかと思いますので、今おっしゃっていただいたような事例は、それをきっかけに議論できると思いますので、できたらうまく資料を整理いただけたらというふうに思います。

【藤田委員】　　徳山のところで、電力、発電の話があって、これから取りかかられるということだったですか。どのようなタイムスケジュールでやられるのかなと思って、同時なのかなと思ったりとか、そのあたりはどういうタイムスケジュールか教えてもらえたらと思って。

【事務局】　　平成２６年度、水資源機構ですが、私どもの事業が２０年４月に第２段階に移りますので、ここ一、二年、１９年から２０年ぐらい、調査計画の段階で、その後工事に移るというふうに伺っております。

【藤田委員】　　もっと早くするとか､それでもよかったかなと思ったりしたんですけど、どうですかね。

【事務局】　　電力の場合は、電力需給計画というマスタープラン的なものがございまして、それに沿って行うということですので、今現在の需給計画に沿った計画になっているというふうに。

【関口委員】　　次回の委員会は主に利水の問題を扱うわけですか。

【辻本委員長】　　予定としては。

【関口委員】　　今言ったように、三重県の水の問題もそうなんですけど、流域委員会とこの木曽三川の流域の問題になっちゃうと、水のフルプラン、あれはどうしても委員会で説明してもらって、実績が今どうなっているとか、あれをめぐってかなり議論があるもので、特に利水の面では。だから、フルプランの中身にちょっと踏み込んで、専門家の立場から、事務局からやっぱり説明してもらわないと。

【辻本委員長】　　そうですね。私、きのうちらっとその話もしていましたので、ちょっと忘れていましたけれども、それもよろしくお願いします。

　それから、先ほど質問に出た中で、フォローアップの話を少しと言ったんですけども、フォローアップで、ダムの機能の低下している、例えば堆砂でどれぐらい機能低下しているというようなことは、今簡単には。

【関口委員】　今よりか次の委員会のほうでゆっくり聞かせてもらったほうが。

【辻本委員長】　じゃ、そういうフォローアップでやられている、いわゆる我々の持っているストックの機能が、最初の計画から比べて低下している事例なんかがあるのかどうかの報告もお願いしたいと思います。

【重網委員】　発電は砂がたまってもあまり影響ないんですよ。その点はもっとはっきりしないと変なことになっちゃうんですよね。

【関口委員】　僕はどうしても問題で気になるのは、たしか部長さんが書かれたと思うんだけど、天竜川か何かでたまった土砂をパイプの中でおろしてきてとか処理していますね、あの後の展開はどうなっているのかとかいう問題もこの土砂の問題の整理等でちょっと興味あるもので、一遍ぜひ紹介していただきたいと思って。

【辻本委員長】　じゃ、それもその中でお願いしたいと思います。

【浅野調査官】　わかりました。いろいろ今宿題がありましたが、議論がうまくできるようにちょっとポイントを、１回でできるかどうかわかりませんが、なるべく絞って、それに即して今回皆さんにお示しできるように一応資料をそろえたいと思います。

それで、こちらのほうから何か今の話があれば、所長さん方、いいですか。特によろしいですか。

それじゃ、大変長時間ありがとうございました。

【細見河川部長】　２日目ということで、明日はまた大垣から低平地を回ってというコースです。計画課長の前座を務めさせていただきますと、三途川の話が出ていましたですけど、大垣のところって、黒い血の川と書いて黒血川ってあるんですね。壬申の乱で血で染まった川、それが関ヶ原でもう一回血に染まる、そこのところが実は大垣のところなんです。それ以外にもいろんな歴史を刻んでおりますけれども、それからまた、七里の渡のあたりまで南下していただいて、まさに平野委員のおっしゃっているような実感を持ったゼロメートル地帯の生活文化、そういったところもあわせて見ていただければと思います。

――　了　――